

おかやま医療機器開発プロフェッショナル

実施機関：岡山理科大学（総括責任者：波田 善夫）

実施期間：平成 20～24 年度

プロジェクトの概要

岡山県内には水島臨海工業地帯とともに、繊維、耐火物等の地域産業をはじめ、戦前からの造船や自動車産業を支える基盤技術から機械金属系の加工組立まで幅広い技術が集積しており、これら地域企業の中には高齢化社会に貢献する知識集約産業である医療機器事業への進出をめざす企業も多い。医療機器の製品化には一般的な基礎研究、製品開発、生産技術開発に加え、安全性試験、動物実験、臨床治験、製造承認申請業務などの医療機器特有の開発ステージが存在し、それぞれの業務に精通した種々のスペシャリストが必要である。

本プロジェクトは医療機器の開発・事業化に必要な医療機器に関する専門知識、安全性試験、臨床試験、薬事承認を遂行するための実戦的な知識、知的財産・MOT 等の効率的な開発遂行に重要な知識を有し、地域企業において医療機器開発の中核となる人材を養成する。医療機器事業進出に強い意欲を有する地域企業に所属し将来当該企業において中核人材となる従業員に対して専門知識・スキルに関する講義・実習を行う。養成した医療機器開発プロフェッショナル人材が地域の医療機器関連企業において新規医療機器開発の中核的役割を果たし、岡山県の医療機器産業の創出・育成を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

岡山県が地域企業への研修者派遣の呼びかけや関連講義への講師の派遣を行うなど、本プロジェクトと緊密な連携協力を行ったこと、修了生の地域への定着率が高く、修了生の上司のアンケートによる本プロジェクトに対する評価も高いこと、また他地域との情報交換により波及効果が期待できることなどは評価できる。今後は、医療機器産業に対する強力な産業支援策や医師とのネットワーク作りなど人材育成の連携強化等について、自治体がより一層寄与することを期待する。

- ・**目標達成度**：人材養成数は所期の目標を超えて達成され、また出身企業からも修了生への高い評価を得ていることは評価できる。今後は、これらの修了生が岡山県の医療機器事業の展開に貢献することを期待する。
- ・**人材養成手法の妥当性**：医用工学各領域の専門家集団が本プログラムを担当した点は評価できる。今後は、地域の大学間の連携を生かし、ポテンシャルをさらに上げることを期待する。

- ・**実施体制・自治体等との連携**：自治体や地元企業との間で多面的な連携が見られることは評価できる。しかしながら、医療機器開発は医学部を持たない大学単体では難しく、医療機関・医科系大学との連携が不可欠である。このため、実施機関はこのような連携強化に向けてより積極的に取り組むとともに、連携自治体である岡山県も、岡山大学医学部・病院や医科系大学とこのプロジェクトをつなぐコーディネーターの役割をより積極的に担うことが必要である。
- ・**人材養成ユニットの有効性**：修了生の地域への定着率が高いことや、修了生の一人がベンチャー企業を立ち上げたことは評価できる。また、他地域との情報交換は効果的であり、波及効果が期待できる。
- ・**継続性・発展性**の見通し：岡山県との共同事業「メディカルテクノバレー人材育成おかやま」にて事業を継続すること、またプログラム終了時に拠点としての資産が蓄積されてきた点は評価できる。
- ・**中間評価の反映**：中間評価で指摘された「カリキュラムのより一層の充実」については、企業側評価なども参考にしてプログラム内容や講師陣に一定の改善が図られるなど、適切に反映されていると評価できる。